

一例は水俣病と診定

脳性小児マヒ患者の解剖結果

熊大 医学部 松本助教授ら発表



発表した松本助教授

本年度熊本医学会総会は二十五日午前八時半から熊大医学部第一講義室で開かれたが、午前の一般講演で医学部第二病院の松本至世助教授と西原慶彦氏（大学院学生）は、水俣地区における先天性脳性小児マヒ患者の解剖結果について「水俣病である」と診定、注目すべき発表を行なった。

解剖したのは昨年三月死亡した二歳六カ月の女児と、今年九月死亡した六歳四カ月の女児で、二例とも明らかに水俣病の症状を呈しており、これは母親の胎内で母親が摂取した有機水銀が胎盤を経て胎児へはいり発病した胎児性水俣

病である、と発表した。

解剖結果によると、大脳脳回が狭く、島野野（後頭葉の部分）を含むすべての皮質の神経細胞構築が不整で細胞数は少ない。また髄質の幅も狭く増殖したグリヤ細胞

核、間脳の神経細胞の数も少なく小脳脳回もきわめて狭く皮質深部ほど強い細胞障害が認められるなど、従来の水俣病病理所見とほとんど同じであったと述べた。

第二病院教室では先に動物実験によって母体内の有機水銀が胎児へ移行することを確かめており、この実験結果と合わせて、こんどの二例は「胎児性水俣病」であると断定した。

現在この二例のほかに、水俣地方に十六人の先天性脳性小児マヒ患者がおり、これをすべて水俣病

と診定するかどうか注目されているが、来たる二十九日には県衛生部長の諮問機関である水俣病関係医学者からなる水俣病患者検査会を開き、この問題を審議することになっている。

もしこれらの患者が水俣病と診定されれば、先に新日鐵水俣工場と患者会との間にとりかわされ

た「水俣病患者家庭互助会紛争調定の審判書」の条項に従って、工場から補償金が支払われることになる

◇松本助教授の話 私が剖見した二例については、今日発表したように間違いない水俣病であるという確信をもっているが、他の十六例については、私は見えていないので何ともいえない。